

「家がいいね」 第249号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2025. 2. 3



さぎんか さぎんか
さいたまち
たきびだ たきびだ
おちばたき
あたらうか あたらうよ
しもやけ
おててが もうかゆい

唱歌「たきび」2番
1941(昭和16)年

いや、ちょっと待てよ。

「あつ、倒れている！ 救急車だ。電話をすぐ」の思考が直感的に飛び出すのが、現代の世情です。ただ「最期まで自宅で過ごしたい」と願う人が倒れている場合、いったんこの流れを止めて考えて欲しい間があるとの体験談を、ぜひとも知ってほしいと思います。以下つらい内容を列挙します。癌の人や家族には、症状の悪化が進み亡くなるという想定をする機会が訪れる。一方で幸いにも気分よく過ごす時間を共有できる。癌以外の病気でも良くなる望みがある。それゆえ日常から急変した時は動揺して、在宅スタッフへの連絡や相談を飛ばし、まず救急車を自動的に呼ぶことになる。本人の意識が確かな場合はイイが、意識が無く心肺停止の時が問題です。心肺蘇生できない判断を救急隊員がすると、病院に運ばず、警察通報に切り替えます。後に在宅スタッフを思い出しても、事件死や事故死として死体検案書の流れは止まりません。「病気療養中です」「本人も自宅で最期を希望した」と伝えての死亡診断書にできません。残念ながら、救急車を呼ぶ前に相談が必要です。実際に相談の主になるのは家族です。私達も同じ思いでいます。改めて在宅の方々に事前の意思決定をお聞きし略称 ACPと言った文案にまとめ確認します。ご協力下さい。



SNS 千里を走る 良い事は伝わらない

失敗から学ぶべきことは多いと私は思う。そのためには、立ち止まり考えることです。先入観やこだわりから離れ、なぜこのような失敗が生じたのか全体像にまで思いを巡らせることが必要です。直ちに答えが得られると(思い易い)電子通信世界(SNS)では、ウソが真実より速く広がる。失敗を繰り返す歴史がある日本は危うい。短期の成果に安心して慢心しやすい、失敗はあつてはならないと言いつつ改革に着手せず、前の施策の手直し止まり、という組織文化であると思つから

お引越しが決まりました 詳細はこれから

2002(平成14)年から、この建物を借りて継続してきました。感謝の23年間に経ちました。仕事量が増え、職員も増えて、脱皮すべき時が当然のように来ました。移転先は、確実になった時点でお知らせしますが、まちなかです。シャッターの閉まった場所に登場です。クリニックそのものは、ちゃんと続けますので、安心して、以降の詳しい情報をお待ちください。私達にも、何時の引越しになるかは調整中です。



臨時休診のお願い

2月22日(土)は、遠藤が出張し、外来休診します。在宅の患者様は大久保が担当します。まだ厳冬。ご自愛下さい。



自宅での人生を
最期まで支援します
〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
メール homecare@kr.tep-ip.or.jp
<https://isezaitaku.com>

→バックナンバ閲覧可

